



目標はグーグル、

アップル、マイクロソフト

ケータイ・フルブラウザ「jig ブラウザ」の人気で一躍脚光を浴びる jig.jp は、典型的な若手ベンチャー企業だ。地元である福井を開発拠点とし、ユーザーからの要望をセンスよく実現し、「かゆいところに手が届く」ような製品を提供し続けている。同社の設立者で代表取締役社長を務める福野泰介氏に、ケータイにかかる思いと将来の目標、夢についてお伺いした(26ページの本誌特集も参照)。

株式会社 jig.jp のプロフィール

所在地 東京都千代田区九段北
設立年月 2003年5月28日
代表取締役名 福野泰介
社員数 19名(2005年6月現在)
ウェブ <http://jig.jp/>
事業内容 携帯電話を使ったアプリケーションの企画・開発・マーケティング



福野 泰介
編集部
Photo: 津島 隆雄

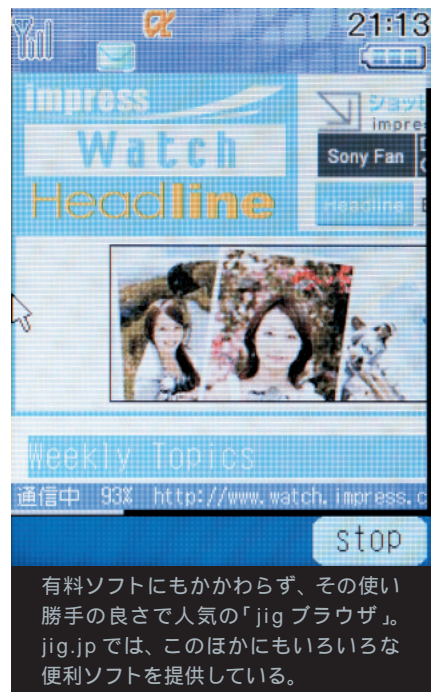
ケータイのビジネスは 一番エキサイティングな分野

取り組んでいる事業の概要をご説明いただけますか。

一言でいうと、「ケータイアプリを企画開発して、一般のユーザーに使っていただく」というものです。その中で、いくつかの製品を有料で販売しています。

ケータイフルブラウザの jig ブラウザが大ヒットしてますね。ケータイ以外の製品を手がける予定はないのでしょうか。

今のところ予定はありません。ノートPCよりもさらに小さいケータイを非常に多くの人が使っている状況が、非常にエキサイティングなんです。また、ソフトを



ダウンロードして使うことにも抵抗が少ない。ケータイはパソコンと違って安心だというイメージがありますし、実際にそう思います。ソフトをみんなに使ってもらいやすいというのは、作る側にとっては重要ですし、面白いと思っています。

フルブラウザの出現は 既存ビジネスをさらに広げる

フルブラウザは、既存のケータイビジネスを崩すかもしれないという見方もあります。また、何でもありのPCの世界に入ってしまうと、安全性が薄れるという人もいますが。

部分的に崩れるところもあると思いますが、全体としてビジネスは広がっていくと考えています。フルブラウザ利用者は、より多くの時間をケータイによるインターネットの利用に充てるようになり、業界全体の活性化につながるのではないかと思います。

また、安全性についてですが、これまでも勝手サイトへのアクセスが認められていたわけですし、PCサイトを見るよう

になったからといって状況が変わるものではないと思っています。むしろ、メールから直接サイトにアクセスできない分、安全が高いといえるかもしれません。

フルブラウザでPCサイトが見られるようになると、逆にケータイ用サイトを作るというのは無意味というか、サイトを作る側からするとケータイを意識する必要はなくなってくるのかなという気もしますが、それについては。

確かにそういう面もありますが、どちらかというと、もっとケータイユーザーを意識してほしいと思っています。日本のブロードバンド契約数は約2000万ですが、常時接続という意味では同等なインターネット対応のケータイ契約数は約7000万にも達しています。これは、今後の通信量定額サービスの注目度から見ても無視できない存在になってくると思っています。時代に逆行するようですが、ケータイでも見やすい軽いページ作りなどしてもらえるとうれしいですね。

また、ケータイ用に作られたサイトは、情報量が小さくてシンプルなものになります。応答速度や操作性の点で優れているので、今後見直されてくると思っています。そもそもフルブラウザは、ケータイサイトでは情報が得られない場合の代替手段として開発したものですから。

サーバーとの組み合わせとアプリとPCの連携で差別化

jigブラウザ以外にもフルブラウザがいくつか登場しています。また、キャリア自身が標準で搭載してきたりもしています。その中で、jigブラウザを使ってもらうためのメリットや差別化というのは何でしょうか。

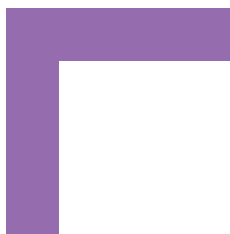
大きく3つあります。まず1つ目は、きめ細かいバージョンアップです。PC用に

作られたサイトを、ケータイで見るのはやはり無理がありますが、そこはソフトウェアの工夫でできるだけ使い勝手を良くすることが可能です。そこを工夫の積み重ねや、利用者の方からの要望を継続的に取り入れていくことで、どのフルブラウザよりも便利なものにしていこうと思っています。

2つ目は、サーバーとの組み合わせによる機能の強化です。jigブラウザでは、処理負荷の高いPCサイトのレンダリングをサーバーと分担させることで、単体のフルブラウザに比べ、動作が高速に、なおかつ通信量が小さくなっています。

また、自宅やネットカフェのPCとともに使うシーンを想定し、お気に入り情報をサーバーと同期させることによって、PCからそのお気に入りを利用可能にしています。このようにサーバーを経由することで、ケータイだけではできなかったことを、今後もどんどん増やしていこうと思っています。

3つ目は、その他のアプリケーションとの連携利用です。jigでは、ケータイユーザーにいかに関を便利に使ってもらえるかという観点で、さまざまなアプリケーションを提案していこうと思っています。jigブラウザを核として、それらの



東京のオフィスでは主にサポートと営業スタッフが働く。ベンチャーらしい雰囲気、部屋には音楽が流れる。ちなみにインターネットマガジン編集部からは徒歩3分の距離。

アプリケーションを連携動作させることで、さらなる利便性を提供していこうと思っています。

例えば、jig ブラウザとスケージュラアプリ、メーカーなど、複数のアプリを連動させることで可能性が広がります。

目標は、グーグル、アップルそしてマイクロソフト

意識していたり目標としていたりする企業はありますか。

目標としているのは、グーグル、アップル、そしてマイクロソフトですね。

グーグルは、目的を達成するためのサービスをシンプルに提供している点がすごいと思います。また、新しいサービスを次々と提供し続けているのも魅力的です。グーグルで20%ルールというのがありますが、jig でも週に1日、好きに何かを作ろうという日を決めて、その日に作ったものを活かそう、ということをやっています。そういう、開発者を盛りたてていくような会社になりたいと思っていますので、グーグルは非常に刺激になります。

アップルはブランド力ですね。グーグルは、水や空気のようなもので、日常的にあたりまえのように使ってもあまり帰属意識というものが無いと思います。もっと使いやすいものや速いエンジンがあれば、そちらを使うようになりますよね。

アップルの出す製品というのはセンスがよくて、ファンがたくさんいるじゃないですか。ブランドのよさをうまく出せているという点で、jig もああいう風になれるといいなと思っています。

マイクロソフトは、多くの人に製品を使ってもらいたいという点で目標としています。マイクロソフトがウィンドウズを作ってくれたおかげで、多くの人インターネットを使えるようになりました。人々がネットやコンピュータを使う新しい世界の創造をjigでもしたいと思っています。

会社のスローガンみたいなものはありますか。

スローガンというかjigの使命だと思っているのは、余剰時間を創出してより多く遊んでもらおうということです。社内的にも快適な環境で仕事ができるようにと心がけています。短時間で働いてしっかり遊ぶことを目標にしています。楽しんで作っているかどうかは、使う人にも伝わると思ってますよ。

「jig」という言葉の意味や、それを社名にした由来を教えてください。

「jig」という言葉には、「テンポの速い軽快なアイルランドのステップダンス」という意味があります。アプリケーションで最も重視している“軽快”という意味を含み、3文字と短いので、ケータイからアクセスしやすいというのモポイントです。

そのjigを、日本発であることを主張し、なおかつ短いjpドメインで取得して、ドメイン名そのものを会社名として英文登記しています。

開発の拠点は今も福井とのことですが、地元こだわりの理由は何ですか。

私をはじめ、開発メンバー全員が福井高専の出身で、福井高専から気軽に寄れるところですね。高専で特別講師として講義をしたこともあります。

私が福井高専にいたときも、学校でわからなかったことをアルバイトでうまく広げることができたという経験から、それを今の学生にも感じてほしいという気持ちがあり、在学生に経験の場の提供なども行っているのです。

それと、プログラマーってあまり日を見るのが少ないですが、世の中を変えるものを作る能力を持っているのはプログラマーなんですよ。それを活かす機会を、インターンやアルバイトでつかんで



ほしいなと思っています。

将来の夢は何でしょうか。

人がコンピュータを使う際のインターフェイス、入り口に当たる部分に、jigを使ってもらうというのが設立当初からの夢です。

今後さらにインターネットで提供されるサービスは多様になってくると思います。ただし、複雑になっては使ってもらえないので、そこをシンプルにした製品を提供して多くの人に使ってもらいたいと思っています。

ありがとうございました。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp